

資料

第5回産業振興分科会資料

2006年2月27日

議事次第

■ 分科会は合計2時間で行います

次第	時間	内容
1 開会	5分	①挨拶 ②出欠確認(出欠表の記入) ③前回の検討内容(議事録・整理表)の確認
2 検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3 話し合い	90分	
4 とりまとめ	10分	
5 閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括(会長)

SWOT分析結果

強み

- ①一次産業がフルラインで整っている
- ②餃子がかなり有名になってきた
- ③大消費地東京に近い
- ④いやし系観光資源が豊富
- ⑤大手企業の工場多数

弱み(問題)

- ①中心市街地が弱体化
 - ◆首都圏への近さがマイナス、個性ある店が根付かない
 - ◆年寄りの買い物が不便
- ②マーケティングが弱い
 - ◆情報発信力がない
 - ◆市のセールスマンがいない
- ③ベンチャーに対する理解の低さ
- ④産業教育系の意識が低い
- ⑤観光地としての意識が低い

SWOT分析結果

機会

こだわり商品への需要増え (農、地場等差別化商品)

- ◇価値観の多様化
- ◇専業農家が多くなり、農産物も専門化
- ◇農産物の生産の向上
- ◇地場産品の振興
- ◇市の名物で街おこし
- ◇グリーンコンシューマーの増大
- ◇質的農業の発達(有機農法や特産物)
- ◇食の安全安心

アクセス改善

- ◇首都圏への接近
- ◇北関東自動車道開通で茨城、海外への接近
- ◇有料道路料金値下げ
- ◇都心へのアクセスがよくなる
- ◇都市部から大型店が出店される(消費拡大、流行にのる)
- ◇交通基盤や情報の伝達スピード加速化により質的な物へのこだわりが出てくる
- ◇交通網が整備され、高速道からのアクセスがよくなる
- ◇商業地の集約拡大
- ◇東京に近い(メリットとデメリットの併存)
- ◇陽南通りがJR線下を開通
- ◇やはりLRT構想

相対的資源価値向上 (資源見直し機会)

- ◇観光を“売り”にしよう
- ◇観光資源が豊か
- ◇自然環境が残っていることから、いやし的な観光が進むのではないか

開発ポテンシャル

- ◇中心街もイメージチェンジしてよくなるかも
- ◇JR宇都宮駅東口の開発
- ◇環境にやさしい街づくりはすすめられる
- ◇二荒山神社前の開発
- ◇経済特区の申請UP

政治、経済

- ◇アジア経済共同体
- ◇足銀受皿銀行の登場
- ◇地方分権化
- ◇成熟社会の進展
- ◇国会誘致?
- ◇個人の資産隔離はよくなるのでは(貯蓄、財力がある)

未来産業

- ◇ユビキタス社会実現
- ◇ハイテク産業が多くなる

その他

- ◇許容度が高い、バリアーが低い
- ◇有識な若い世代のUターン⇄都内への流入
- ◇福祉関係の充実

教育・文化・スポーツの向上

- ◇文化の向上
- ◇音楽、芸術への理解度深まる
- ◇大学の法人化
- ◇栃木弁(個性)
- ◇教育が多様化して受験地獄もなくなるかも…
- ◇栃木SCの昇格

脅威

経済環境の変化

- ◇ディーゼル車規制
- ◇地価の下落
- ◇食生活の変化、外食が多くなる(農業生産物、流通への係わり)
- ◇欲望はあっても切迫したニーズがない

既存産業の停滞

- ◇中国・インドの発展(ロシアも)
- ◇外国からの安価商品(競争激化)
- ◇超大型店の中小小売業分野への進出
- ◇ストロー効果(いいところだけ吸いとられる)
- ◇物流の変化により倒産が増えていく
- ◇進出企業の撤退
- ◇資本流出(投資機会が少ない)
- ◇空店舗通りの増加
- ◇大企業の進出が減る
- ◇東京住民の草刈場
- ◇首都圏に生活圏が入ることにより地元産業が倒れる
- ◇若者の東京志向
- ◇ベンチャーが少ない(NEET?)
- ◇雇用吸収型産業の低迷(ハイテク化)
- ◇工業団地の企業撤退
- ◇コンピュータ関連産業の地位の低下(頭脳流出)
- ◇地域金融の足腰が弱い
- ◇地元の銀行のゆくえ
- ◇伝統的工芸品産業の衰退(グローバルゼーション)

環境(自然)悪化、産業廃棄物

- ◇温暖化、環境破壊

市のアイデンティティの埋没状況

- ◇売り方が下手
- ◇宇都宮という知名度が低い
- ◇地域力をつけよう、強めよう
- ◇空港へのアクセス
- ◇個性のない街になっていくのでは

人口問題—高齢化・少子—

- ◇高齢者向け産業の未発達
- ◇少子・高齢化(労働力が減少)
- ◇道路網は整備されても高齢者の活動範囲が狭まる
- ◇交通網が発達することにより人口の流出
- ◇子育て支援にもっと充実を

労働力の減少

- ◇商店・農業etcの後継者不足
- ◇人口増(核家族化)による農地の減少
- ◇農業人口減少、就農者高齢化
- ◇中央集極化(知識人の一極集中)
- ◇ニート増加

政治・財政の悪化

- ◇消費税アップ・政治のツケ
- ◇国へ頼りすぎの農業、農業体質弱体
- ◇各種税金の値上げ

安全・治安の悪化

- ◇犯罪は多くなるかもしれない
- ◇外国人労働者の受入、体(態)勢強化が必要

重点課題抽出結果

機会×強み

特産品

- ◇とちおとめのようなブランド農産物を他にもどどんと作り出す。全国から所望されるようにする
- ◇全国一のとちおとめでどこにも負けない加工品を開発、宇都宮の顔の一部となるように(馬路村のゆず加工品のようにこれに代る味がない)
- ◇一次産業がフルラインで整っているので、市民にも農業のよさを理解してもらい、地場ものを消費できるようにしなければ
- ◇宇都宮市の風土にあった農産物(品種)を開発し、加工産業を育成する
- ◇農産物の専門化→体験
- ◇農家の作物の専門化が必要(特色ある～さんちの～など)
- ◇産地のカムリをつけた産物を販売する方法で
- ◇特産の農産物を全国、アジア市場にまで広げる
- ◇価値観の多様化に対応できる農産物マーケティングをより検討すべき(宇都宮の食材を使う店)
- ◇新鮮農産物に専門性をもたせる(群馬とはちがうPR)
- ◇一次産業がフル。農産物が専門化することにより、消費拡大を図る販売網を作る
- ◇首都圏に近いメリット→地場産品の振興
- ◇Eコマース・システムを活用する(ヤフーとの提携もありうる)
- ◇特産品の直売所(アンテナショップ)をつくる
- ◇いちご特産物の様な、特筆する農産物の生産と農家への育成を考える
- ◇より安全で質の高い農産物の安定供給
- ◇オリジナル農産物の研究・開発施設(農業ベンチャーの促進)

アクセス

- ◇北関東自動車道の開通で海が近くなるので、魚料理の食文化を高めていく

地元民

- ◇教育・文化・スポーツを向上させるには、地元民と大手企業等からの流入人口との協調理解が大切だ!

ぎょうざ

- ◇餃子で結ぶ全国ネットワークを進めていく(餃子家族など)
- ◇ぎょうざの街を持続するためにぎょうざ通りとかぎょうざタウンをつくらう
- ◇餃子に関連する産業の育成(材料を宇都宮市の様々な農家・小麦工場から調達)
- ◇宇都宮の特産物を市民が再認識し、地産地消をすすめる工夫

観光

- ◇大谷などの開発を進めるのはアクセスを工夫すべき
- ◇いやしの追求。本当のいやしを提供できる仕掛けを
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行つて存在を知らせる
- ◇豊かな観光資源を売りにする

企業

- ◇進出大企業の製品展示会を開く
- ◇大手企業の工場誘致は補助金が従来より出るとの事なので、チャンスではないか
- ◇工場誘致を熱心に。その周辺は人が増え、にぎやかになる
- ◇進出大手企業に地元雇用比率を(義務)指導する

再開発

- ◇宇都宮城の完成一人々の憩いの場所としよう
- ◇歴史のある街を強調した開発をする(宇都宮城址、百人一首)

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く

他

- ◇宇都宮市を活気がある市とよその人はとらえているという。ルイヴィトン級の店をひとつ誘致しよう

機会×弱み

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く
- ◇安全な食について学校教育と市民教育を徹底して行う
- ◇アクセスが良くなる。大都市への特産物へのアピール、コマーシャル
- ◇産業教育系の意識が低いのは未来産業の導入などで活性化出来るのでは
- ◇食の安全、安心を地域でもっと理解を深める
- ◇子供世代に経済や地球レベルの環境問題を教える
- ◇消費者教育の必要性
- ◇意識が低い所がかなりの弱み。資源は有るのでどうか市民で話せる場を
- ◇新たな基幹産業を担う人材・若手企業家の育成に力を貸そう
- ◇宇都宮のポテンシャルを自信をもって説明できる教育
- ◇マニー、中西など世界的企業を市民が誇れるように教育する
- ◇小中高校等で、もっと宇都宮を勉強する機会をつくってはどうか
- ◇市民の教育、市民へのPRによる意識づけ

行政

- ◇地域経営のフロを育てる(首長は市の経営者)
- ◇企業家をささえる行政が大切
- ◇R&Dに、自治体はより多い予算を投入する

再開発

- ◇二荒山神社前に「お年寄り団地」を、周囲に専門店を誘致
- ◇中心市街地が弱体化しているので、アクセスを改善(LRT)するとともに地場商品等差別化された製品を扱う商店街へ
- ◇二荒山神社前の再開発
- ◇中心街弱体化、アクセス改善、産業開発、特産品等とからめて考えるとどうか
- ◇中心市街地へ一ベンチャー拠点を

地元民

- ◇まちづくりにリタイヤ高齢者のノウハウ活用策をつくる
- ◇元気印の年寄りをボランティアで活用しよう
- ◇人口ピラミッドを狭い地域単位でつくり、余剰労働力の所在を明示する
- ◇産地と需要側の交流をうながす
- ◇LOHASを支える自然を、東京に積極的に売り込む

企業

- ◇市中心部への車で用事を足す時、公的駐車場の整備を設置して欲しい。中心部に足が向かないのは駐車場の問題有
- ◇中心市街地に居住をうながす方策として計画されている二荒山神社周辺の建物づくりをすすめる
- ◇行ってみたくなる大型店、有名店を中心市街地に誘致する
- ◇地域活性化に若者のリーダーを選び、支援する
- ◇進出大企業のテイクアワーズを行政がリードする
- ◇地元での雇用吸収型産業の創出(新たな基幹産業の創出)

観光

- ◇観光地・大谷・百穴等よく考えたら自分達も知らないことだらけ。資源発掘するのには、もっと知る事も必要
- ◇日光・鬼怒川・塩原・那須への通過点としてしか考えてない。市民も観光客も観光地と思うべき
- ◇大谷石文化をもっと前面に出した魅力ある商店街(統一性)の実現をめざすべき
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行つて存在を知らせる

デザイン

- ◇サービス産業の未来ビジョンをつくる

全体

- ◇将来の宇都宮を総合的に考えるには、たかが餃子からアピールできた市民を自負するべきだ

他

- ◇大学等の人材を生かし、ベンチャー企業を保護、育成していく

テーマ	重点課題
	<ul style="list-style-type: none">重点課題をテーマ別に、3～4つに絞って整理してみましょう。